

3月7日（木）、令和5年度加賀看護学校卒業式がクロスガーデン加賀4階ホールで行われました。5年ぶりに在校生も参列しての式典となりました。



以下に、式辞、送辞、答辞の言葉を全文掲載します。

学校長式辞

本日本校を卒業される皆さん、誠におめでとうございます。今日まで皆さんを支えてこられたご家族の皆様にもお慶びを申し上げます。

さて、皆さんは新型コロナウイルス感染症が蔓延し、制限が多くあった中で、良く耐えられ、所定の教育課程を修了されました。国家試験直前には地震に驚かせられ、ストレスの多い日常を過ごされたと思います。これから希望を持って医療現場にデビューすることとなりますが、常に何かか起きているのが医療の現場です。教科書にも書いていない、試験にも出なかった突然のことに、多く遭遇するでしょう。

本日は皆さんの門出に際し、一つの言葉を贈りたいと思います。それは「じりつ」です。今、ご列席の保護者の皆様は「じりつ」と聞いて、自ら立つという漢字を思い浮かべたでしょう。一方で、卒業生は自ら律する方の漢字を思い浮かべたのではないのでしょうか。今、国家試験を受けたばかりで自律神経の勉強を沢山しましたから、心の中に自ら律する方のじりつが出てきているはずですよ。私はどちらも医療人にとって大切な心の持ち方だと思います。

まずは自ら立つほうの自立の話をしていきます。皆さんは自分ですべてできることを自立と思っているかもしれませんが、しかし、医療現場で自分一人ではほとんどありません。先人たちが苦労して作り上げた知識やシステムの上に我々の仕事があります。むしろ知らないことばかりです。そもそも、国家試験でも満点の方はいません。皆間違えるのです。あなたは全部を知らない、気をつけなさいと叩きこまれるのが看護師国家試験かもしれません。医療現場における自立とは、自分ですべてできると誤解するのではなく、自らが立って歩いて、他人に素直に聞くことができるという意味です。

次は、自分を律する方の自律について述べたいと思います。これから確実に訪れる少子高齢化、自然災害、技術が進みAIやロボットが医療現場へ導入されるでしょう。十年後、二十年後には社会、医療は大きく変わっています。それでも国家資格を有している医療者の力は強く、この患者の看護はこうですと主張すれば医療知識のない患者さんは納得をせざるを得ません。普通の商売ならお客さんと従業員の間で、商品に対しては対等で同じ土俵で議論ができます。病院ではプロが素人をだますことが簡単に出来るしまうのです。そんな立場のあなたが、自らを律し、学び続けることは当然の義務です。ある日の職員会議で、私は「卒業生はどのような視点で就職先病院をきめるのだろうか」と職員に質問しました。進路指導教員は「新人教育が優れているとホームページに書いてあり、それを見て学生は病院を選んでいきます」と答えました。本音では加賀市医療センターに入職してほしいと思いましたが、卒業生は入職後も継続して教育される病院に身をおく、その意見をとても頼もしく思いました。

それぞれが良き医療人としての目標に向かって、一步一步、急ぐことなく、自分を大切に進んでいってほしいと思います。そして良き友人、同僚、師匠に出会う努力をしてください。医療環境がどのように変わろうとも、皆さんはきっと対応していけるはずですよ。時々加賀看護学校を思い出してください。困難があるのが人生です。自らが苦労を重ねてゆくことで、看護師としての自信と誇りが、水が自然としみこむように育まれていくことと信じています。

最後にこの場をかりて、本校の教職員、ご列席の病院関係者の皆様に学校長として感謝致します。例年になく困難を伴う状況下において、教育、実習、進路指導にご尽力いただきました。そして、卒業生がこの日を迎えることができました。ありがとうございます。

さあ、卒業生の皆さん、社会からの大きな期待を背負っての、あなたたちの新しいステージの始まりです。皆さんのご健闘を祈念しております。本日は誠にありがとうございました。

令和6年3月7日 加賀看護学校長

送辞

木々の芽がふくらみ始め、柔らかな日差しの中に春の訪れを感じられる季節となりました。このような良き日に、加賀看護学校を卒業される三年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

先輩方との最初の出会いは、入学後の交流会でした。学校PRの動画を共に作成したことが、昨日のように思い出されます。また、本年度は体育祭や文化祭を行うことができ、共に準備し



過ごす機会を得られたことがとても嬉しく感じられます。その交流を通して、日頃の学習の仕方や試験勉強の留意点などを優しく教えて頂いたことがとても心強かったです。学校生活では、試験や臨地実習を迎える度に、学ぶことの多さや看護過程展開の難しさに直面し、逃げ出したくなる時もありました。そのような時、先に行く先輩方の存在にいつも励まされ前を 向いて頑張ることができました。

思い返せば、新型コロナウイルスの感染対策のため臨地実習ができなかったこともあったとお聞きしました。また、看護師国家試験を前に、1月の能登半島地震の大きな被害を目の当たりにし、学習が手につかないこともあったかもしれません。これまでいくつもの壁を乗り越えてこられた先輩方は私たちの目標となる存在です。今、先輩方は本校での思い出を胸に、これから始まる新しい生活への期待と不安で胸がいっぱいのことと思います。看護師としての責任や、仕事の厳しさに大変な思いをすることもあるかもしれません。そのような時は、試験を乗り越えた自分を信じ、共に過ごした仲間のことを思い出してください。

最後に、これまで良き先輩として私たちを導き、支え、励ましてくださったことに心から感謝し、皆様の今後のご活躍とご多幸を願ひまして、送辞とさせていただきます。

令和6年3月7日 2年生代表

答辞

日差しが日々やわらかくなり、木の芽もふくらみ始め、命の躍動する春の訪れを感じる季節となりました。本日は、私達のためにこのような素晴らしい式を挙行していただき、誠にありがとうございます。また、ご多忙の中、ご臨席賜りましたご来賓の皆様、諸先生方、保護者の皆様には心よりお礼を申し上げます。

卒業を迎えた今、この3年間を振り返ると、長いようで一瞬の出来事のように感じます。3年前、私達の学校生活はコロナ禍に始まり、たくさんの制限がある中、大きな期待と不安を胸に、看護師への第一歩を踏み出しました。看護師国家試験合格という同じ目標に向かって、共に歩んできた道はかけがえのない、とても貴重な時間でした。そして今日に至るまでの道のりは、決して平坦ではありませんでした。

学校生活では、新型コロナウイルス感染症により、臨地実習が学内実習となることが多く、患者様と関わる機会が少ないまま3年生になりました。患者様に寄り添うとはどういうことなのか、個別性のある看護を提供するためにはどうしたら良いのか、自分の看護観とは何か、と悩むこともありました。そのような状況でも、熱心にご指導して下さいました実習指導者の方々や、いつでも親身になり、話を聴いて下さった先生方に励まされ、乗り越えることができました。そして、未熟な私達を快く受け入れて下さり、笑顔で「ありがとう」「信頼される看護師になれるよ」と話して下さいました患者様からの言葉に幾度となく励まされました。これらの経験が、私達の看護の礎となっています。

この3年間、共に歩んできた年齢も様々で個性豊かな仲間とは、たわいもない話で笑い合い、心が折れそうな時には、いつでも側にいて自分のことのように一緒に悩んで励ましてくれました。臨地実習や国家試験の勉強では、全員が大きなプレッシャーと不安を抱えていましたが、毎日笑いか絶えないクラスだったからこそ乗り越えることができました。この仲間と出会えたことを心から幸せに思います。そして、何よりも感謝の気持ちを伝えたいのは、3年間に限らずどんな時も味方であり、愛情深く育ててくれた家族です。辛い時も、嬉しい時も、家族がかけてくれた温かい言葉はどんな言葉よりも心に響き、安心感を与えてくれました。

在校生の皆さん、これから様々な試練にぶつかり、悩むこともあるかもしれません。そのような時は決して一



人で抱え込まず、先生方や仲間、そして家族に話すことで、気持ちが楽になり、自分は一人ではないと実感できることでしょう。共に支え合いながら、楽しい学校生活を送ってください。

本日をもって本校を去ることに名残惜しさは尽きませんが、多くの方々のおかげでこの日を迎えられましたことに感謝を申し上げます。この感謝の気持ちは決して忘れることはありません。私たちはこれから、それぞれの道を歩みます。看護師は患者様の最も側近くにあり「看守る」存在です。一人ひとりの心に寄り添い、常に初心を忘れず、高い志を持って日々成長できるように進

んでいきたいと思いを。

最後になりましたが、ご支援を賜りました皆様方に心から感謝を申し上げ、加賀看護学校がこれからも素晴らしい学校であり続けますようお願いして、答辞とさせていただきます。

令和6年3月7日 卒業生代表